会　議　録

会 議 名 称	令和２年度　第４回加古川市子どもの読書推進計画（第３次）策定委員会
開 催 日 時	令和３年１月 15 日（金）午後３ 時から午後４ 時まで
開 催 場 所	加古川市立青少年女性センター　301 会議室
出　席　者	＜委員＞ 森委員長、渡瀬委員、石田委員、今津委員、 田中委員、宮川委員、（長谷中委員欠席） ＜ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ＞ こども政策課真島課長、幼児保育課中村副課長（代理） 社会教育・スポーツ振興課尾崎係長（代理）、 学校教育課堀之内副課長（代理） ＜事務局＞ 中央図書館中塚館長、荒木館長（加古川図書館）、成川資料担当係長、 田杭
会 議 次 第	１　開会 　委員長あいさつ ２　議事 （１）加古川市子どもの読書活動推進計画（案）のパブリックコメント実施結果について（説明及び意見交換） （２）パブリックコメントの回答（市の考え方）案について （３）パブリックコメントを受けた計画の修正案について （４）子どもの読書活動推進計画　令和２・３年度実施計画スケジュールについて ３　閉会
配 付 資 料	資料１ ・１－１　「加古川市子どもの読書活動推進計画（案）に関するパブリックコメントの実施結果について」 資料２ ・２－１　「加古川市子どもの読書活動推進計画パブリックコメント回答表」 資料３ ・３－１　加古川市子どもの読書活動推進計画（第３次）素案（修正分） 資料４ ・４－１　「子どもの読書活動推進計画　令和２・３年度実施計画スケジュール」

審議内容	
1　開会	森委員長あいさつ
2　議事	（1）加古川市子どもの読書活動推進計画（案）のパブリックコメント実施結果について
（事務局）	令和２年 11 月４日（水）～12 月３日（木）にパブリックコメントを実施した。 ・意見をいただいた方は５名、意見の件数は 23 件。 ・意見の内訳は、３章については２件、４章については 20 件、５章については１件。４章の中では公共図書館の読書環境の整備については８件、小中学校の読書環境の整備についてが、５件となっている。
	（2）加古川市子どもの読書活動推進計画パブリックコメント回答表について
（事務局）	（資料２に沿って説明）
（委員長）	市民の方からのご意見はブックスタートの開催や、学校司書の配置について、司書の増員、自動車文庫や、図書の購入についてなど、予算を伴うものが多いが、前回のパブリックコメントと比較して、今回どのようなニーズが強いと受け取ったか。
（事務局）	お一人目の方は、計画案についてというよりは、公共図書館へのご意見が多かったです。前回のパブリックコメントは学校司書に関する意見が多かったですが、この５年間で実現できなかったのでトーンダウンしてしまったという気がしています。
（委員長）	ブックスタートについて２件のご意見があったが、こどもの部局ではブックスタートについて、これから事業として取り組んでいく計画はあるのか。図書館だけでなく、こどもの部局が中心となって行う事業であると思われる。
（ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ）	この度、新型コロナウイルスの関係で、11 月から中学生以下の子どもに一人あたり三千円の図書カードをお配りしました。図書館で作成したおすすめの本の情報を市のホームページに掲載しています。継続する事業になるかは未定です。

（事務局）	ブックスタートについては、自治体によって、図書館が主になって進めているところと、こども部局が主になって担当しているところもあります。４か月児健診は、加古川市では育児保健課が担当しています。現在は加古川市では予算が付いていませんが、図書館が子ども読書活動推進の取りまとめをしているので、毎年財政当局には予算を付けてもらうよう折衝はしています。今回のパブリックコメントで意見をいただいていますし、子育てにやさしい市ということを考えていくのであれば実施してもよい事業と思っています。近隣でも明石、高砂、姫路とほとんどのところが実施しており、明石についてはブックセカンドで３歳児にも本を渡しています。加古川市としてどうしていくのか、財政当局に強く訴えきれていないところがあるかもしれませんが、引き続き折衝していきたいと思います。場合によっては育児保健部門と連携して取り組んでいきたいと考えています。
（委員）	学校司書の配置について「研究を進めてまいります」とあるが、ここで研究という言葉を使うのは、印象が違うように思う。
(ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ)	よく答弁で使う言葉ですが、学校司書を確保するために、各市町がどのような施策を訴えていったのか情報収集をして、加古川市としても予算を確保するために資料を作成して、予算の折衝を行っているが、この５年間実現していないので、どのような形で提案していけばより訴えかけられるものになるのか、学校司書を置くことによってどのようなエビデンスとして期待できるのか、予算を確保するためにいろんな角度から物事を考えているという意味で研究という言葉を使っています。
（委員長）	他に意見がないようでしたら、この修正内容で回答とし、ホームページに掲載させていただきます。 （３）加古川市子どもの読書活動推進計画（第３次）素案について
（事務局）	・２３件の意見を受けて、素案を３か所修正 ・４ページ　公共図書館の「年間読み聞かせ（おはなし会等）回数及び延べ参加人数」の表を追加しました。なお、現行の第２次計画中の平成２６年度の回数と延べ人数に誤りがありました（正しくは、回数３２９回、延べ人数６，５５９人）ので、修正しています。 ・６ページ　「司書教諭及び学校司書の配置状況（令和２年度）」を追加しました。

	・９ページ　「家の人に、よく本を読んでもらう子どもの割合」の表を追加し、その説明文章を修正しています。 ・16 ページ　「学校図書館ボランティア」という表現が２か所ありますが、「学校園支援ボランティア」という表現に訂正しました。 ・資料編のうち策定経過について本日の会議日付とパブリックコメント結果の追加、用語解説の「司書」の項を手直ししています。
（委員）	学校園支援ボランティアという表現になると、図書のボランティアの意味合いが薄まるように思う。
（委員）	私も同じように思ったが、見出しに「学校図書館における体制整備」とあるので、この支援ボランティアは学校図書館ボランティアだと考える。
（事務局）	それに関しては、「教育振興基本計画」の資料で、学校図書館の整備の推進及び読書活動の推進」の項目の中に、「学校園支援ボランティアとの連携を通して、子どもの読書環境の充実を図る」という文言があって、同じく学校園支援ボランティアとなっていますが、項目の中は「学校図書館の整備の推進および読書活動の推進」の中のボランティアの名称となっていて、上位計画に合わせるということで、学校教育課からご指摘を受けています。
（ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ）	「地域とともにある学校づくり」を学校教育の大きな柱として展開していて、平成３０年から令和３年までの３年間で、各学校に学校運営協議会という新しい仕組みを整えることになっています。各所にいろいろあったものを整理して、また新しい形で地域との連携を進めていく今は変換期です。名称を統一し、学校園支援ボランティアの中でも、学校図書館ボランティアの方がいらっしゃったり、学習支援ボランティアの方がいらっしゃったりするが、大きな上位計画の中に出てくる言葉に合わせたいというのが学校教育課の考えです。これによって、学校支援ボランティアの中の一つに、学校図書館のボランティアがありますということを改めて示していると捉えていただきたいです。
（委員長）	それでは、他にご意見がないようでしたら、この修正内容で計画案とします。 （４）子どもの読書活動推進計画　令和２・３年度実施計画スケジュールについて

（事務局）	本日の会議を受けまして、パブリックコメントに対するご意見の回答をホームページに掲載します。その後、「加古川市子どもの読書活動推進計画（第３次）」を市長決裁いたします。 その後、その第３次計画に沿った来年度の実施計画を策定いたします。以前２月に推進連絡会を開催する予定とご案内しておりましたが、新型コロナウイルス感染症が拡大しており、書面会議を開催し決裁後決定としたいと考えております。 また、今年度の実施計画に沿った、後期の取り組み実績・評価の調査とそのご報告をその次回推進連絡会で行う予定でしたが、このような状況ですので調査票をお送りし回答いただいた内容を、次年度早々に推進連絡会を開催し、ご報告いただくというスケジュールで考えております。委員の選任が４月末、５月中に後期の報告となり、令和３年度は、５月、９月、２月の３回で予定しています。
３　閉会 （委員長）	あいさつ